

# 令和3年度 長岡市市民協働推進審議会

---

1. 市民協働条例制定、市民協働センター  
オープンから10年のあゆみ
2. コロナウイルス禍と市民活動
3. これからの市民協働とSDG s

# 市民協働条例制定、市民協働センターオープンから10年のあゆみ

資料1

市民協働条例は、まちづくりを市民・団体・企業・行政など皆で進めていくことを定めたものです。10年の間には新たな社会課題が次々生まれ、各主体がそれぞれの分野で解決に向けて活動してきました。中でも市民活動団体は、困りごとの身近な相談場所あるいは居場所として定着しています。市民と行政の中間的な役割が多数存在することは長岡市の強みと言える点であり、成果の一つと考えています。また各主体が日頃からつながりを持ち、お互いに頼れる関係性を少しずつ築けていることも成果と言えます。



平成24年4月 **アオーレ長岡、市民協働センターオープン**

市民活動情報誌「らこって」発行

平成24年6月 **市民協働条例制定**

平成25年4月 「**市民活動推進事業補助金**」制度開始

平成25年6月 「つながるラジオ」放送開始

出前相談、組織運営講座開始

平成27年7月 一般向け、シニア向け講座開始

平成28年度 市民協働センター利用ガイド作成

平成30年7月 市民協働啓発・活動紹介パネル展開始

「協働マッチングリスト」作成・配布

令和2年2月 市民活動推進事業補助金活動発表会開催

令和2年4月 「**長岡市の協働が目指すビジョン**」策定

「**未来を創る市民活動応援補助金**」制度開始

(市活補助金のリニューアル)

令和2年6月 「**感染症にまけない奨励金**」制度創設(～令和3年3月)

令和3年4月 「**未来へつなぐ公益団体応援補助金**」制度創設(～令和4年3月)



市民協働センターは、団体の「何かをやりたい」をカタチにできる場所に。相談は毎年約800件、登録団体数は430にのびります。



補助金を活用した事業は約500事業実施(写真は令和1年度に採択されたあおーねの会の認知症予防ゲーム)

感染症下でもつながりを絶やさず活動者のモチベーションを保つため、令和3年度は「未来共創補助金」に加え昨年のアンケートを反映して設計した「未来へつなぐ公益団体補助金」との二本立てで支援しました。多くの団体が工夫しながら活動を継続、奮闘する市民の活動を紹介します。

## 未来を創る市民活動応援補助金

市民団体等が長岡の未来を考え、その実現に向けて主体的に取り組む公益事業に上限50万円を補助するもの。(10万円まで全額、超える分は80%補助)

令和3年度実績…20事業337万1千円(前年度比+8事業、+102万1千円) 2/1現在

申請団体	事業内容	申請団体	事業内容
機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会	旧機那サフラン酒本舗の魅力発信	発達障がいのためのコロ親子の会	発達障がい児親子向け体験会
ながおか技術教育支援機構	出張プログラミング教室	長岡おやこ劇場	周年記念イベント
小国文化フォーラム	周年記念講演と記念誌発行	NPO法人ピアの森・狐遊庭	闘病中患者向け和太鼓セラピー体験会
入沢一夫顕彰会	郷土の偉人の顕彰	nowa	女性農業者によるマルシェ
OHIRUGOHAN	川崎子どもランチ	KNH五色百人一首クラブレッドキャッツ	五色百人一首体験会
青空ママフェス実行委員会	青空ママフェス2021	紙芝居塾	昔話朗読CD制作と学校への提供
森のようちえんふたばっこ「森ようび」	絵本原画展とお絵描き教室	特定非営利活動法人ドリーム	越路地域でのフードバンク
ウィメンズヘルスlab	子宮頸がん予防講演会	つなごー手	川崎地域で食材支援
長岡の橋をきれいにする会	長岡の橋クリーン作戦	地域にバレエ・ダンスアートを育てる会	フラダンスワークショップ
ひだまりハウス	障がい児の兄妹支援研修	三島億二郎顕彰会	団体発足チラシ作成



ボランティアから実行委員になった人も。団体がパワーアップできました！

青空ママフェス実行委員会



NOWA

様々な人や関係機関とつながりができ、今後の活動が広がりそうです。

# コロナウイルス禍と市民活動②

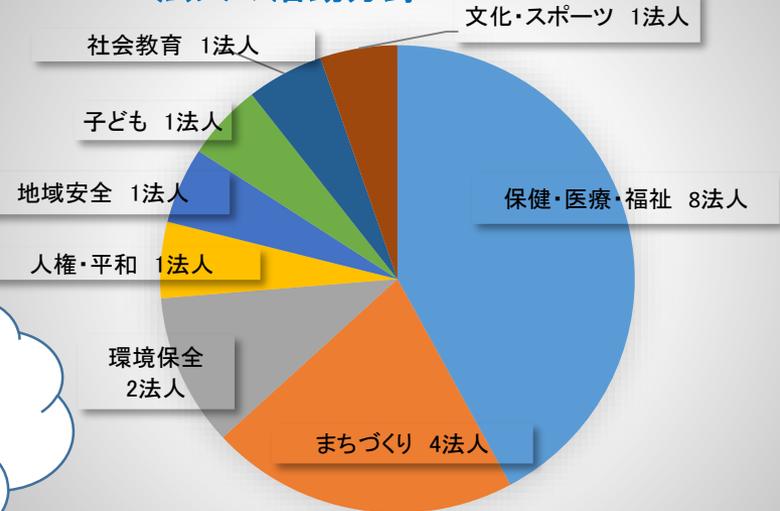
## 未来へつなぐ公益団体応援補助金

市民生活を支える公益的な活動を行う団体を対象に、感染症対策に要する経費を上限50万円補助するもの。  
(10万円まで全額、超える分は80%補助)

<令和3年度実績> 19団体336万2千円 2/1現在  
<団体内訳> NPO法人19法人  
<事業内容> 衛生用品、空気清浄機、  
オンライン用備品、  
パーティー等

利用者・職員の感染  
リスクを低減し安心  
につながりました  
(福祉系のNPO法  
人)

## 19法人の活動分野



## ながおか市民活動フェスタ'21

市民活動フェスタは対面での実施は叶いませんでしたが、オンラインで意思疎通を重ねた結果、活動PR展示会を開催。「わくわくを止めない」を合言葉に、活動を次年度につなげています。



Zoomで会議を重ねました



実行委員が展示物を作成



参加団体の活動紹介パネル展を開催

# これからの市民協働とSDG s

## ★コロナ禍の市民協働

10年間で生まれた、身近な地域で相談できたり居場所となる団体は今後益々重要な存在です。長岡市は引き続きこうした中間的な存在を支援し育て、つなげることに力を入れていきます。今後の指標として、市民活動と親和性の高いSDG s の理念「誰ひとり取り残さない」を「協働のビジョン」に取り込み、そこに近づくことを目標として協働の政策を進めていきます。

## ★ビジョン達成に向けた具体的なアクション

(1) 5つの視点で相談対応します

- ①市民の幸せにつながる、または取り残されている人々を救う活動か
- ②持続可能な方法で進めているか（資金面・人材面等）
- ③活動する人たちが無理をせず、楽しんでいるか
- ④できない部分は他の人・団体の力を借りることを提案
- ⑤市民が喜ぶ活動をしているという誇り・やりがいを意識してもらう

(2) アイコンで「活動が見える化」し、団体からSDG s を意識してもらいます

- ①未来共創補助金の申請書・実績報告書
- ②市民活動フェスタのチラシや団体看板
- ③協働マッチングリスト

(3) SDG s を知る・学ぶ機会を提供します（継続）

- ①協働センターの講座メニュー
- ②広報誌、HP、SNS、つながるラジオ等



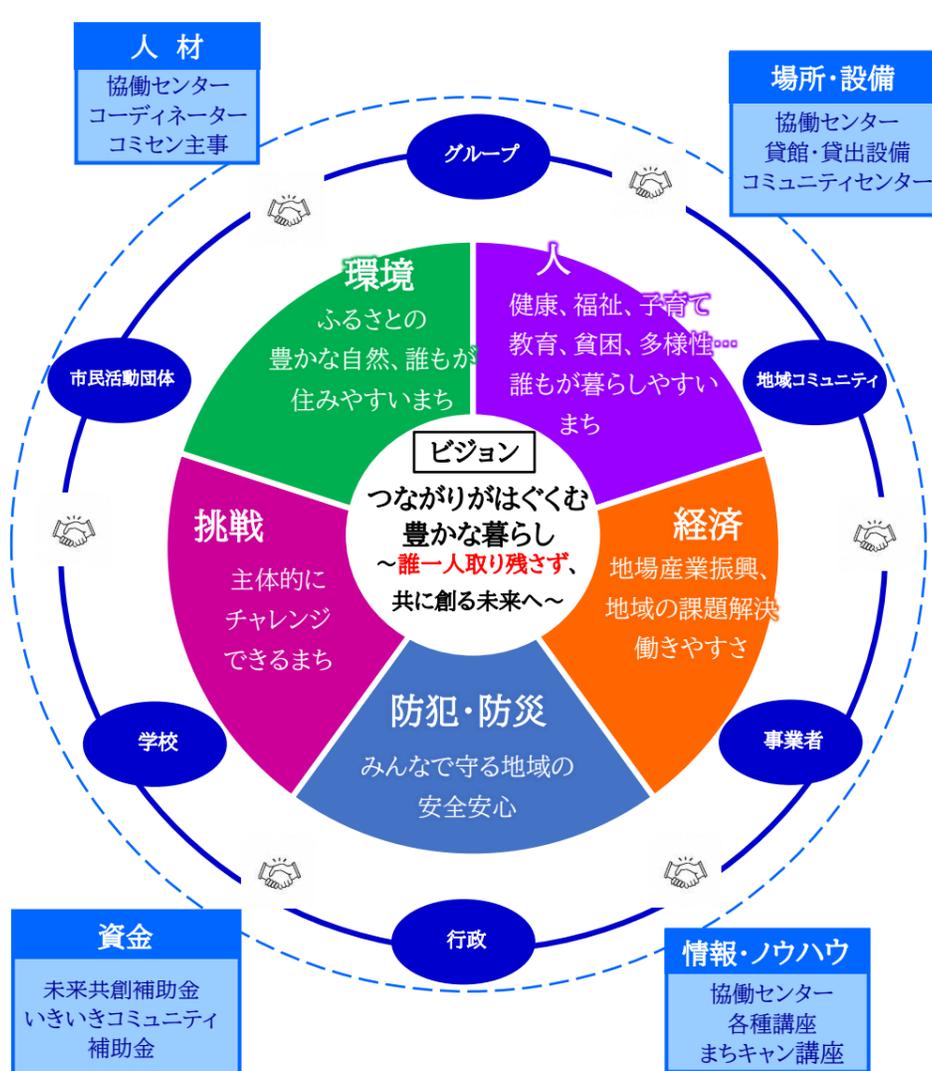
## ■2025年までの長岡市の協働が目指すビジョン

つながりがはぐくむ豊かな暮らし～誰一人取り残さず、共に創る未来へ～

長岡市は、度重なる自然災害などを乗り越え着実な発展を続けています。しかし急速に進む少子高齢化や人口減少など決め手の見いだせていない重要課題に直面していることも事実です。**一昨年からのコロナ禍により格差の広がりや分断が続く中、今こそ市民協働条例の理念に立ち返り、市民一人ひとりが持続的に発展しつづけるまちづくりのために何をすべきか考え、互いにつながり合いながら行動し、将来にわたって安心して心豊かに暮らし続けられる「ふるさと長岡」を「共創」していくことが大切だと考えています。「持続可能なまちづくり」「誰一人取り残さない」はSDGsの目標であり、長岡市の協働が目指すビジョンとも親和性が高いです。**

## ■ビジョンのイメージ

社会における様々な課題はSDGsの17の目標を包含しています。各主体はSDGsを意識しそれぞれの強みを生かして持続的に発展しつづけるまちづくりのためにできること・やりたいことに主体的に取り組みます。市は、市民協働センターの運営、未来を創る市民活動応援補助金による活動支援などのリソースを最大限生かして、市民の自発的・主体的活動の芽をはぐくみつつ、**つながりを絶やさないよう促します。**



## 社会課題

**人**  
…ふるさと長岡に住むすべての「人」があらゆる場面で暮らしやすいまちの実現を目指します

**経済**  
…満足感のある暮らし、企業と市民団体等が繋がったまちの実現を目指します。

**防犯・防災**  
…交通安全、防犯、防災など、みんなで助け合い支え合って地域の安全を守り、安心して暮らせるまちの実現を目指します。

**挑戦**  
新しいアイデアを具体的なカタチに変えていく、そんな挑戦に誰もが取り組める環境と雰囲気を整え、豊かで活力あるまちの実現を目指します。**誰もがチャレンジでき、「パートナーシップ」を発揮することが課題解決への第一歩です。**

**環境**  
…地域の豊かな自然と共生し、ひいては地球の自然環境を守るため、一人一人が自然を守り生かし楽しみ、都市の生活環境や景観も保全しながら、誇らしく美しいまちの実現を目指します。

**ビジョンの根幹となる基本理念**（長岡市市民協働条例 第3条より）

1. 市民と市は、協働のまちづくりを推進することにより、将来にわたり市民の更なる幸せな生活の実現を目指すものとする。
2. 市民と市は、それぞれがまちづくりの主役として、自発的に活動するものとする。
3. 市民と市は、それぞれの特性の違いを活かし、自助・共助・公助の理念にのっとり、相互に補完し合いながら、まちづくりを行うものとする。